

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆  
小林国二・小林善秋・高橋潔・室賀清輝  
高橋利春・加瀬由紀子・屋代健  
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信  
後援・株式会社アサヒ  
印刷・(株)北越時報社



ご家族の皆さままでご覧ください。

## 暑中御見舞申し上げます 翠巖弘

上の写真は安善寺で毎年六月十一日に厳修しております「大般若法会」です。大般若とは大般若波羅蜜多經の略で、唐の玄奘三蔵が六六〇年から四年余りを費やして漢訳されたものです。

大品般若、小品般若、文殊般若、金剛般若、理趣般若など各種般若部經典の一大全集で、十六会六百卷あり、(般若心経などは含まれない) 大小乗諸經典の中で最も大部のものであり、大乘諸經の中で最も根本的基礎的なもので、「諸法皆空」などの仏教の中心思想がその中に盛り込まれているといわれております。

く智慧にめざまさせようとするもので、古來加持祈禱に用いられ、大般若転読の時には導師がこれを読むほか、大般若転読に替えて、これのみを誦することもあります。

玄奘は大般若經を鎮護国家の天人の大宝とされたため、中国・日本では講説されるよりも、鎮護の妙典として鎮護国家、除災招福としての祈禱用として転読尊重されてまいりました。

經一卷を全部誦するのは大変ですので、転読大般若といひ、題目・品名のみを読み、その經文は唱文をとこなえながら翻転して誦読のかわりにします。

大般若会では近隣の住職の方々からご随喜戴き大般若六百巻を転読していただき、仏教が増々輝

きひろまり、世界の平和、日本国が安穩であり、皆々様方の家内安全、除災招福、心願成就等々を願ひ祈禱します。

私共人間の力では及ばないところを、仏様はじめ仏法守護の十六善神様等にお願ひし、よい因縁を結ばしていただくことを願うと同時に、自分自らもよい因縁をつくる精進を誓う日でもあります。

「静かな池に小石を投げよ。円い波紋が広がってゆく。人間の考えも行いも一たび動いた心の波は、永遠にのびてゆく。正しい波悦びの波をつくれ」

波の源は他に求めてもなく、私共の行いと心の中にあります。良い因縁を結んでいただきたく、寺の法会などの参詣をお待ちしております。

# 仏前結婚式「結の仏」

浅野 裕子

穏やかな春の日、式師様（安善寺様ご住職）のお導きと曹洞宗青年部ご寺院様方のお取り計らいで、安善寺様で息子の結婚式を挙げさせていただきました。



した。親として初めての結婚式。精いっぱいのことをしてあげたいという気持ちや、準備に落ち度がないかとの心配があいまって、それまでの多忙と緊張で、式当日はガチガチになっていました。振り返れば「親」という責任を一身に背負って来たように思います。



耳に届く雅楽の音色や、仏様やご先祖様へのご報告と誓い、三々九度の杯。そしてご寺院様方をはじめ、式に立ち会ってくださったすべての方々との般若心経の唱和。いくつもの偶然が重なって出会い、この日この場に居合わせてくださいる方々。ふたりを祝福する般若心経の

唱和がただ、ただありがたく、その場が奇跡のように感じました。ご先祖さまから生を受け、子を産み育て、その子が伴侶を得て次世代を担い、それを見守りながらいつしか消えていく、という普遍の流れ。その大きな流れの中に生かされていることを、結婚の儀式の中で気づかされました。子を案じてあれこれ悩み、時には親としての不十分さを情けなく思うこと



もあつたけれど、そんなふうに緊張らず、ご先祖さまから受け継いだものを感じながら、仏様の計らいに素直に身をゆだねて、生を全うすればそれでいいのだと気づき、心身がほどこけていきました。そして新しく家族や親せきになった人々たちのご縁や、この場を作ってくださったすべての方々に感謝がわき、ふたりがこれから周りの人々や仏様に見守られていくこと

を実感でき、お寺様で結婚式を挙げていただいていた本当によかった、と心から思いました。結婚の儀が無事終わり、喜びに包まれる中、ふとご本尊様を見上げると「どうであれ、それで上出来」と言ってくださったように見え、お釈迦様のもと、大きな安堵に包まれた春の良き日です。安善寺様、曹洞宗青年部の皆様、感動の結婚式をありがとうございました。

# 【日々精進(三十三)】

## 仏教会青年部で「五ヶ寺巡り」

近藤 真弘

皆さんもご存じのとおり仏教には様々な宗派があります。長岡市にも多くの宗派のお寺がありますが、そんな中、様々な宗派が集まった長岡市仏教会という会があります。

歴史は古く、長岡市仏教会主催の五月五日に毎年行っているお釈迦様の誕生を祝う「花まつり」は今年で九十一回目を迎えました。全国的にも超宗派の集まりである、仏教会というのは多々ありますが、長岡市は特に他宗派との繋がりが強く、毎年宗派を超えた協力で盛大に花まつり行事を行っています。

そんな長岡市仏教会の中に、仏教会の活動の補佐を目的とし、長岡市仏教会の活動に積極的に参加し長岡市民に広く仏教の布教を目的とした、若

手僧侶の集まりである仏教会青年部があります。青年部があるというの全国的には珍しいことだと思いますが、その青年部で今年からある企画を立て、実行いたしました。それは、所謂研修旅行です。

私自身そうですが、自身の曹洞宗のことは当然よくわかりますが、他の宗派のことは全く詳しくありません。せっかく様々な宗派の集まるこのような組織があるので、お互いに多宗派のことも勉強し、

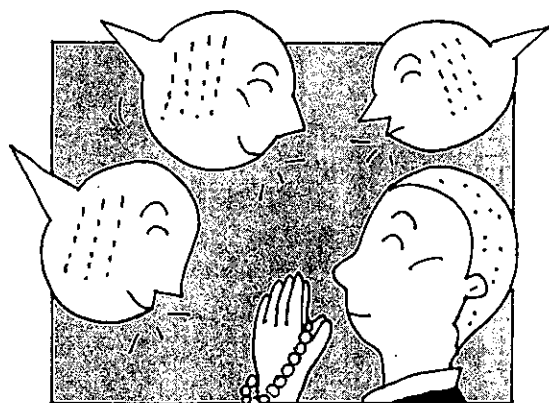
研鑽を深めようというのが企画の始まりです。

第一回目となる今年は曹洞宗の本山である鶴見の總持寺を含めた京浜四大本山と、築地の本願寺を巡ってまいりました。

京浜四大本山というのは、總持寺のほか浄土宗の大本山である芝の増上寺、真言宗智山派の大本山川崎大師平間寺、日蓮宗大本山池上本門寺の四ヶ寺で、いずれも京浜地帯に位置する本山です。

参加者は十数人で曹洞宗、浄土真宗大谷派、本願寺派、高田派、真言宗豊山派、法華宗と様々な宗派の方が集まりました。

始めに参拝した増上寺は都心の真ん中にあり、本堂である大堂のバックには東京タワーがそびえ立ち、稀有な景色を眺め、



のお店や、境内の中の出店など、賑わいを見せていました。最後に訪れた池上の本門寺も広大な境内地を有し、日蓮上人の靈廟もお参りさせていただきました。

今回は、一泊の日程で、五ヶ寺を巡る少し慌ただ

有名建築家の設計である築地の本願寺もとても存在感のある建物で本堂内の参拝者の数が多いことにも驚かされました。その後の總持寺では少し長い時間に時間を取り、修行僧に堂内の説明をしてもらいながら、拝観をいたしました。初めて来た方は長廊下の長さや、千畳敷の大祖堂の大きさに感嘆し、總持寺の歴史にも真剣に耳を傾けていました。

翌日参拝した川崎大師はさすがに全国的に名の知れた寺院だけに、門前を無駄にすることなく、自身の布教化に生かしていきたいと思えます。

# 木版画のお嫁入り

東京都 井田 秀子

義父井田忠治(昭和五十二年五月九日享年百歳の過去帳に「元和四年(一六

一八年)春、長岡藩主牧野忠成公が三河国牛久保から長岡藩主として移住し

菩提寺は男性は正覚寺、女性には安善寺に埋葬し、その後は男女とも安善寺を当

家の菩提寺とする」と記してあります。これが私どもと安善寺様とのおつきあ



▶「岩海苔採りの老婆」(曇平貴ほどもある大きさの作品です)



▲「友よ語らん」

いのはじまりです。夫、井田大作は、昨年正月三日、孫達を囲んで楽しく語り過ごした翌朝、風邪をこじらせその日以来「介護五

の寝たきりの生活になつてしまいました。在宅での四百余日の老老介護がはじまりました。介護の日々は時に心が折れそうなこともありましたが、日々明るく話をして、穏やかで、そしてお

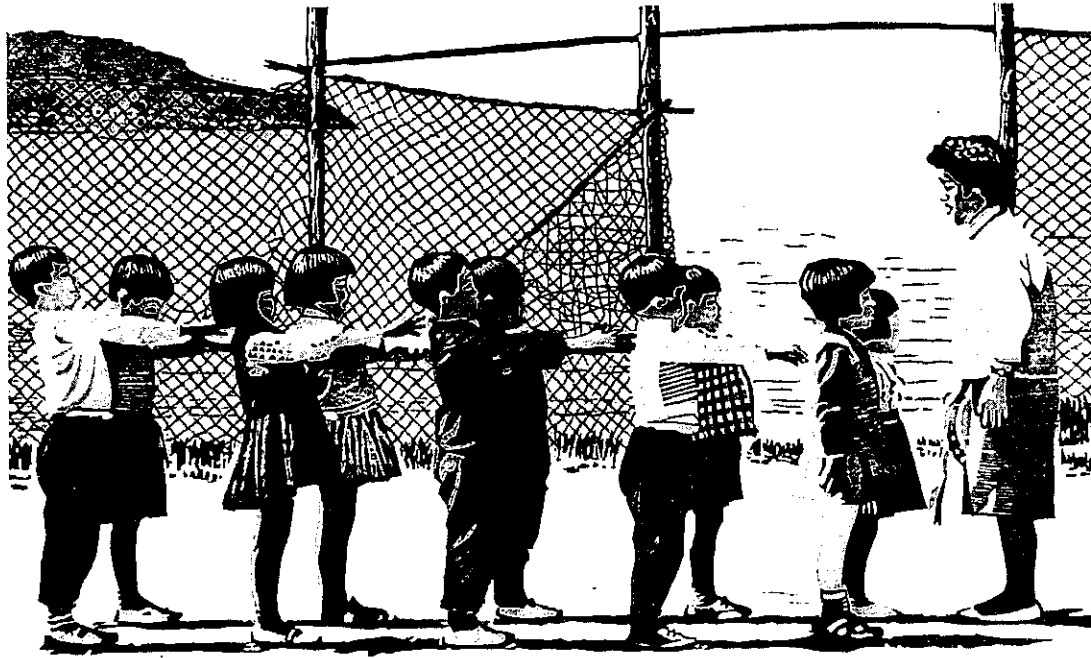
互い「ありがとう」の気持ちで過ごしました。

最後は身辺整理を託して、家族に看取られ静かに旅立っていきました。

趣味人の主人は、会社勤めの後、暇つぶしにと詩の勉強と木版画の制作をはじめ、生涯の記念として自作詩集三冊を上梓することが出来ました。

子供の頃から絵が得意だったと聞いておりましたが、地域のサークルで木版画の年賀状製作に参加してから版画の制作に没頭しておりました。原画から版木におこし、拡大鏡を使いながら部屋中木屑だらけにし、背を丸くしながら細部に集中し彫刻刀を動かしていた姿を懐かしく思い出されます。

毎年、上野での「日本版院展」に出品し、入選した岩海苔とりの老婆」と岬の分校」は数多い作品の中でも傑作です。この度、この「岬の分校」を安善寺様に寄進させていただくことに



「岬の分校」

1997

岬の分校



なりました。主人の作品が思い出深い長岡に「お嫁入り」でき、さぞ喜んでいれることでしょう。私もどの年齢ですと、映画「二十四の瞳」を連想し、鄙びた小島の風情が何より好きなの作品です。

主人と新潟との思い出は、旧制新潟高校時代の新潟での生活や、子どもの頃従兄弟の家に行つて軒先から伸びた「つらら」を叩いたり、大雪で二階から出入りしたことを、よく聞いております。寒がりの主人でしたが、雪国の冬と春の訪れのころの越後の風情をこよなく愛しておりました。

この五月、九十一年の生涯を閉じ、色とりどりの鉄線が咲くこの安善寺に眠ることが出来ました。両親兄弟と今頃何を語りあっていることでしょう。

詩集  
「火見櫓が見える風景」より  
貼紙  
「順番は多少前後する  
ことがありますが、間違  
いなくお呼びします  
ので、しばらくその  
ままでお待ち下さい」  
死神病院外来  
あんさんの番どすえ  
おおきに



「ムラハの市庁舎」

# 第二十二回 KAKA笑の会

## 津軽三味線の夕べ

高橋とも子

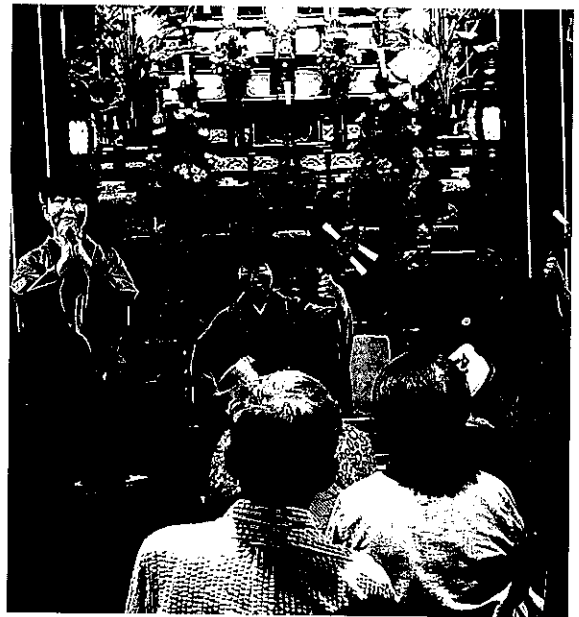


活動開始から第二十二回となる「KAKA笑の会」は、五月二十七日(金)午後六時半より、安善寺本堂にて、堀沢ファミリーをお迎えし、「津軽三味線の夕べ」を皆様に楽しんでいただきました。

岡市川口地域を拠点に、木田流師範(堀沢誠師匠)のもとに集まった、生え抜きの実力者により構成され、県内各地はもとより、全国にまで名が知れ渡る注目の三味線グループです。

平成二十四年には「津

軽三味線全国大会Aグループで金賞受賞をはじめ、輝かしい実績を残されておられる方々です。私はテレビでは何度も津軽三味線を目にしてはいますが、間近に、しかも荘厳な安善寺様の本堂で、耳にし目にするのが出来、感動いたしました。

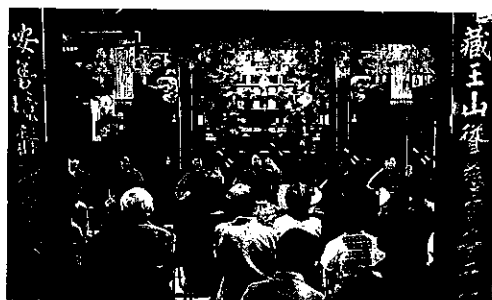


今回は七名程のメンバーで演奏していただきました。曲目は「津軽よさざん節」「新潟笹だんご節」や、私にとっては初めてお聴きする曲「佐渡おけさ」「両津甚句」など、お馴染みの曲を迫力たっぷりに演奏していただきました。特に初めて耳にした「笹だんご節」は、笹だんごの作り方や食べ方までが、ユニークな歌詞で歌われ、会場からも笑いがもれていました。

小学生位からファミリーに参加し、練習を重ねられて方もおられるとか。演奏終了後は、懇親会に参加いただき、KAKA笑の会の会員が一品ずつ持ち寄ったお料理がテーブル狭しと並べられたのに、目を丸くしておられました。その際に、演奏者の方々が普段は農業をされておられたり、会社勤めだったり、仕事が終わってからの練習に励んでおられることを知り、感心しました。

堀沢さんがリーダーとして参加し、練習を重ねられて方もおられるとか。演奏終了後は、懇親会に参加いただき、KAKA笑の会の会員が一品ずつ持ち寄ったお料理がテーブル狭しと並べられたのに、目を丸くしておられました。その際に、演奏者の方々が普段は農業をされておられたり、会社勤めだったり、仕事が終わってからの練習に励んでおられることを知り、感心しました。

なり、平均年齢が二、三代中心の若い三味線グループです。どうぞこれからも津軽三味線の演奏で私たちを楽しませてください。



# その昔、寺院は山中に建てられていた…

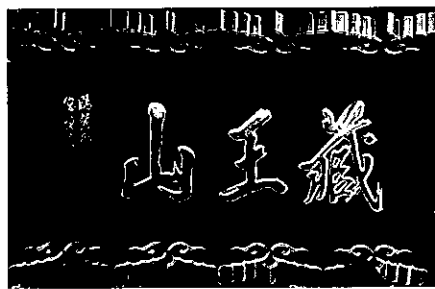
**Q** 比叡山延暦寺・成田山新勝寺など寺には山号がありますがこの山の意味や謂れはなんでしょうか？

**A** 山号とは、寺院に冠する山の称号。もともと、山中に建てられた寺院を某山某寺とよんだことに起源する。

後世には平地に造られた寺院も、また山の称号をつけ、ついに寺院の別称となった。中国における廬山東林寺・天台山国清寺などの称呼は、みなその山中に建てられたため、所在の地名をとって何山と題したのである。

日本でも、飛鳥奈良の頃建立された寺院には山号はなく、比叡山延暦寺・高野山金剛峰寺など、みな所在の地名を冠したもので、いわゆる後世の山号ではないようである。

鎌倉時代以降、禅僧の



渡来とともに、中国の五山などに擬して寺院の上り、平地に建てられた寺院はもろろん、市中にある寺院にも山号をつけるようになった。

京都東山建仁寺・鎌倉巨福山建長興国寺などこれである。吉祥寺・永平寺・大雄山最乗寺などは、山中に所在するが、やはり特に山号を撰して寺号に冠したものとみるべきである。…以上「禅学大辞典」による。

安善寺の山号の由来は

残念ながら分かりませんが、想像しますに、当時越後一の宮と称せらるる弥彦神社と拮抗する程に中越一体の人々の崇敬を集めた蔵王権現宮や蔵王堂城が存在した蔵王から「蔵王山」という山号が撰されたのではないかと思います。

（上の写真は本堂大間入口、露地上に掛けられている大本山總持寺独住第一世諸嶽空堂禅師様の揮毫された山号額）

## 副住職通信

**大本山總持寺へ お米を送る運動**

修行僧に越後のおいしいお米を！

詳細はお寺にお尋ねください

総和会嶽山会新潟県中越支部

【精進料理教室「味来食堂」開催のお知らせ】

左記、案内書の通り開催。内容が変更になる場合がございますので、ご興味のある方は、副住職までお尋ねください。

【大本山總持寺にお米を送る運動】ご協力をお願い

日々修行に励む修行僧に越後のおいしいお米を送る運動です。

募集内容 平成二十七年(昨年度産)の玄米のご提供をお願いします。三十キロまたは十キロの米袋に「ご住所」「お名前」「重量」をご記入ください。

- 旅立ち**
- 平成廿八年三月〜六月末日まで
- 若林 信史様 三月五日寂 長岡市希望ヶ丘
  - 桑原 ハル様 三月廿五日寂 長岡市下山
  - 品田 徳次様 三月廿九日寂 長岡市四郎丸
  - 八代 登様 四月五日寂 長岡市宮沢
  - 中村富美子様 四月廿四日寂 東京都江東区
  - 監物 マス様 五月八日寂 長岡市東新町
  - 中村 進様 五月十二日寂 新潟市西区
  - 小林みよ子様 五月廿四日寂 長岡市千秋
  - 小池 次男様 六月九日寂 長岡市緑町
- ご冥福をお祈りします。

【徳食】を学ぼう

**味来食堂**

現代人の心と身体を癒す 古くて新しい精進料理の作り方を 和向さんが伝授します

料理を通して和食文化の心を学びます

第1回 平成28年9月16日(金) 13:00~開催

会場 なじら〜て東店内「Ami」 参加費 ¥1,000 定員 20名

主催 長生青年会 共催 全国買断宗青年会

ボブの独り言

# もう半年、いろいろありました

ボブの独り言

先回のつぶやきは、まだ雪解けの中から福寿草が見え始めた頃だったのに、早いもので四ヶ月が過ぎ、あつという間に、もう一年の半分終わってしまいました。

境内は色とりどりの紫陽花が見事に咲き、お寺の本堂と玄関の入口前の階段には、念願の手すりがつきました。

この前も「これがあるといーね！ 足が悪くて階段下る時が怖くてね、助かるは！」って言う声が聞こえてきました。そんな声が聞こえると嬉しいですね！

住職とパーバにとって、この半年は家族や親戚の行事の何と多かつたことか。一年分？ もしかしたら二年分の行事が重なったような半年でした。



二人には二十二人の甥姪がいます。半年でその内の十八名もの甥・姪達に会うことができたのです。それぞれの母親のお法事だったり。そんな中でも高校を卒業してからは、もう関西の方が長くなつた二番目のお兄ちゃん

が良き伴侶に恵まれて、四月に大阪で結婚式を挙げることができました。住職もパーバも少し肩の荷がおりたように見えます。お寺では、真人君の弟の悠真君も幼稚園に入園しました。毎日、お兄ちゃんを送り迎えに連いてい

ついていたので大丈夫と思つていたのですが、暫くは泣きっぱなし。でも元気に登園するようになったら、朝のお参りの唄も口ずさむほどに。日中は、モモちゃんが吠える以外は少し静かになりました。

帰って来て二ヶ月余になるモモちゃん、一歳四ヶ月の元氣盛り。私の存在が本当に気になる様子で、外に出る時は必ず、階段の下からジーつと上をみているので、怖くてなかなか下に行けなくなつてしまいました。でも二階の網戸に猫穴を付けてもらったので、自由に出入り出来、幸せです。

ニヤーン

## 編集 雑感

今回の季刊誌 編集委員会は早々に編集を終える事が出来ました。それは皆様からそれぞれ思いのつた寄稿をいただいたお陰です。

その一つに仏前結婚式のお気持ち書かれておられますが、実は私も参列させていたいただいておりました。ライオンズクラブでの友人、トリア株式会社浅野氏のご子息の結婚式でした。

仏前結婚式への参列は三度目となりますが、神前や教会での結婚式とは別の厳肅さがあり、新緑の中白無垢でのご入場は感激

## お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面づくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

### 原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

でした。どうぞ末永きお幸せを御祈念申し上げます。また、KAKA笑の会では精進料理を持ち寄って皆で食べたり、ミニコンサート等もやり、楽しく会話をしたりして十三年も続けております。ご案内は季刊誌に掲載されますのでぜひ皆様もご参加下さい。前回の季刊誌では高野不動産株式会社の五十周年記念座禅会の話が掲載されておりましたが、初代会長は十五年前に亡くなられており、苦しい事もあつたが皆様のお陰でここまで来られました。これからの五十年・百年先に向かって決意のための坐禅修行だったとのこと。

高橋 利春

第七十五号、秋号は平成二十八年九月十五日(木)発刊予定です